

# スタートアップ・エコシステム拠点都市における 取組について

---



令和4年4月

内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局

# 日本におけるエコシステム拠点形成の取組

- スタートアップ・エコシステム拠点形成戦略(2019年6月 内閣府、文科省、経産省)に基づき、2020年7月グローバル拠点4都市、推進拠点4都市を選定。
- 拠点都市を中心としたスタートアップの海外事業展開を支援すべく、グローバルスタートアップ・アクセラレーションプログラムを実施中。

## スタートアップ・エコシステム拠点都市

- 選定した拠点都市に対して、内閣府、文部科学省、経済産業省の関係施策による集中支援を実施
- 政府支援策をわかりやすく提示し、支援機関間のメニューをシームレスに提示するためのプラットフォームを構築
- ゲットプラクティス共有WGの開催等による拠点間の連携強化、良好事例の横展開を促進



東京拠点がスタートアップ・エコシステムランキングで9位に上昇するなど、各拠点のKPIはおおむね順調に進捗

東京	開始時	実績 (2021年7月)	目標 (2024年)
■ ユニコーン数	3社	<b>8社</b>	20社
■ スタートアップ・エコシステムランキング	ランク外	<b>世界9位</b> (2021年9月時点)	世界10位
■ 大学発ベンチャー数 (Jソサティ加盟大学の総計)	533社	<b>928社</b>	倍増

名古屋・浜松	開始時	実績	目標
■ ユニコーン数	0社	0社	10年で5社
■ 売上100億円以上のスタートアップ数	0社	0社	10社
■ 資金調達額	76億円	<b>86億円</b>	1,000億円

大阪・京都・神戸	開始時	実績	目標
■ ユニコーン数	0社	0社	5社
■ スタートアップ創出数	5年で271社	<b>138社/年</b>	5年で542社
■ 大学発ベンチャー設立数	4年で82社	<b>60社/年</b>	5年で214社

福岡	開始時	実績	目標
■ ユニコーン数	0社	<b>1社</b>	5社
■ 時価総額10億円超のスタートアップ数	32社	<b>38社</b>	100社
■ スタートアップVISA認定数 (2016年1月以降の累積)	57件	<b>82件</b>	114社

# (参考)各スタートアップ・エコシステム拠点都市の概要

## 【グローバル拠点都市】

### スタートアップ・エコシステム東京コンソーシアム

(東京都、渋谷区、川崎市、横浜市、茨城県、つくば市、和光市等)

スタートアップやVC・大企業等の支援者が圧倒的に集積する東京都心部(渋谷、六本木・虎ノ門、大手町・丸の内、日本橋)を核に、ハブ&スポークの連携で研究開発拠点を有する各都市(川崎、つくば、和光、横浜)と連結。東京大、慶応大、早稲田大など有力大学連携で研究開発成果の事業化を促進。各自治体を中心としてスタートアップの新技术・新サービスの実証フィールドを提供。「新しい日常」に対応するデジタル(・トランスフォーメーションも推進)。



虎ノ門ヒルズインキュベーションセンター「ARCH」

### Central Japan Startup Ecosystem Consortium (愛知県、名古屋市、浜松市等)

日本を代表する製造業の集積とスタートアップとの繋がりでイノベーション創出を加速。モビリティ、インフラ、ヘルスケア、アグリ、光などを重点分野に協創プロジェクトを推進。名古屋大学を中心とする大学群で起業家教育・デジタル教育を強化。日本最大級のスタートアップ拠点「Station Ai (フランスのStationFに対抗)」を整備。



NAGOYA INNOVATOR'S GARAGE

### 大阪・京都・ひょうご神戸コンソーシアム (大阪市、京都市、神戸市等)

三都市の強みを融合(大阪:大企業、資金、人材、京都:研究シーズ、製品化支援、神戸:社会実証実験・公共調達)。ヘルスケア、ものづくり、情報通信分野に重点。大阪大学、京都大学、神戸大学を中心に大学・研究機関、企業が連携。「大阪・関西万博」に向け経済界を含め京阪神一体となった支援体制を構築し、スタートアップの新技术・新サービスの機会創出を実施。



Hack Osaka

### 福岡スタートアップ・コンソーシアム (福岡市等)

2012年「スタートアップ都市宣言」以降、スタートアップカフェやFukuoka Growth Nextの設置など、官民共働でスタートアップ支援を実施。九州大学を中心としたアントレプレナー教育の充実や、独立系VCの活躍、大型スタートアップイベントの開催、海外との連携強化などエコシステム形成が加速中。国家戦略特区などの国の支援策に、市独自の施策策を合わせることで、一貫通貫型のスタートアップ支援を実施。



Fukuoka Growth Next

## 【推進拠点都市】

札幌・北海道スタートアップ・エコシステム推進協議会(札幌市等)、仙台スタートアップ・エコシステム推進協議会(仙台市等)、広島地域イノベーション戦略推進会議(広島県等)、北九州市SDGsスタートアップエコシステムコンソーシアム(北九州市等)

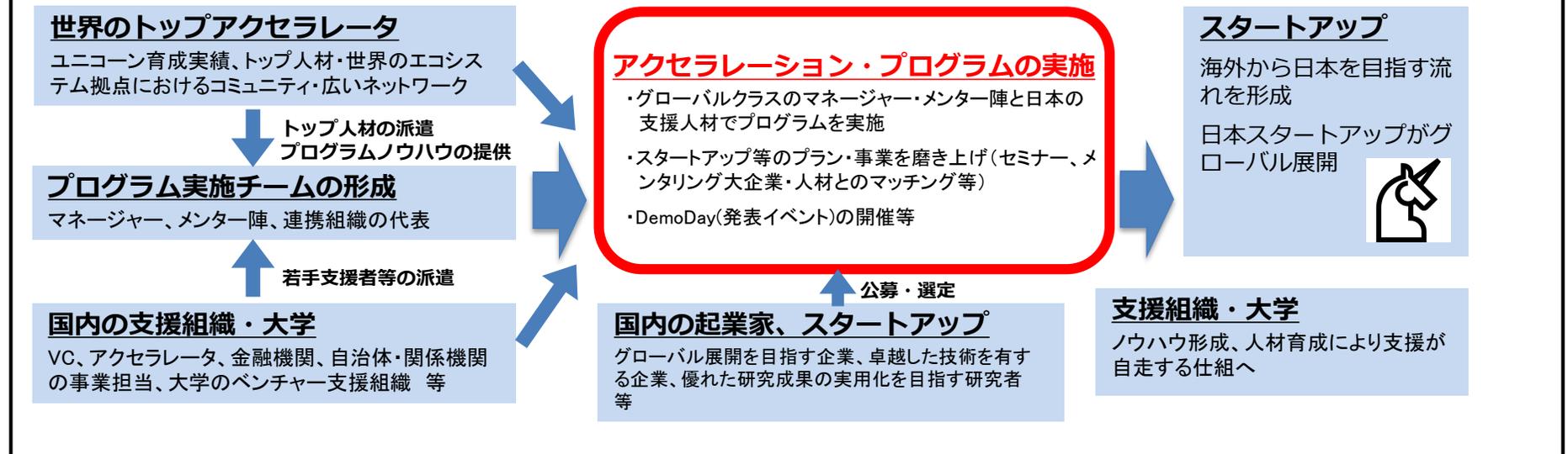
# グローバルスタートアップ・アクセラレーション・プログラム概要

## 背景・目的

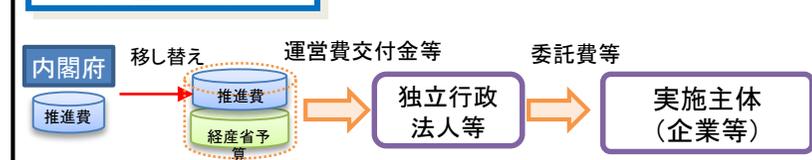
- スタートアップ・エコシステム拠点形成戦略（2019年6月）に基づき、エコシステムの中核となる拠点都市を選定（2020年7月）。
- エコシステム形成と成長促進、官民の投資を誘発するため、拠点都市支援のランドマーク・プログラムとして、2021年度は補正予算で10億円、2022年度は補正予算で15億円の予算を確保し、アクセラレーション事業を経済産業省のJ-StartupへのPRISM予算の上乗せにより実施。

## 事業概要

- **海外トップアクセラレータによるプログラムを実施し、世界に羽ばたくスタートアップの育成、世界のトッププレーヤーと各拠点の支援組織（自治体、ベンチャーキャピタル等）の繋ぎやノウハウの移転を実施する。**



## 資金の流れ



## 期待される効果

選定された拠点都市でグローバル視点のスタートアップ育成、支援人材の交流による支援ノウハウの伝達を促進。あわせて投資の実務・契約の基本・事業展開のスピード感などエコシステムの基盤となる知見や行動様式等もグローバル水準に合わせることに貢献。

# イノベーション・エコシステム専門調査会の設置

## 【背景・課題】

- 科学技術・イノベーション推進のためには、いわゆるイノベーション・エコシステムの構築が不可欠
- 特に、エコシステムの重要なプレイヤーであるスタートアップが次々と創出される環境整備が重要
- 内閣府では、スタートアップ・エコシステム拠点形成戦略(2019年)を策定し、関係府省と連携して施策を推進
- こうした取組により、イノベーション・エコシステムの構築に向けて一定の成果は出ているものの、他国エコシステムとの競争のためには、成長速度の格段の加速が必須
- 「大学ファンド」によるイノベーションの源泉となる大学の異次元の強化を機に、この果実をスタートアップを通じ成長させるイノベーション・エコシステムの抜本的強化を図る

## 【検討の方向性】

- 本年2月より、CSTIの下に「イノベーション・エコシステム専門調査会」を設置し、既存施策の強化に加え、新たな方策を検討中。

## 検討事項

### ■ 成長志向の資金循環形成

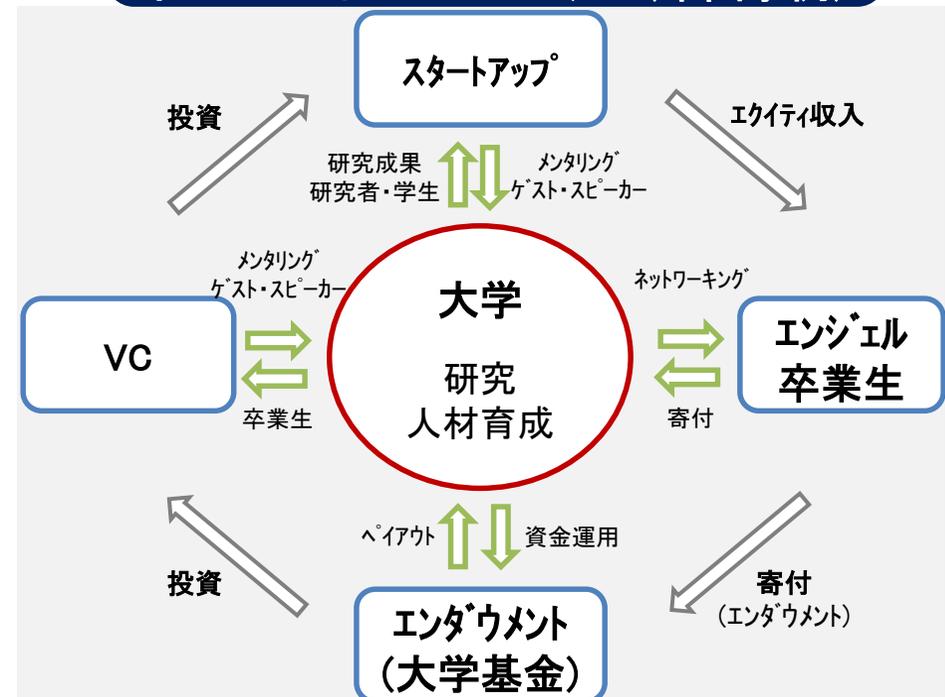
- 大規模機関投資家からのVC投資促進
- 海外VCから日本への投資拡大
- 未上場株式市場（セカンダリー・マーケット）の創出

### ■ 成長志向の「人材」などの基盤強化

- 世界に比類するスタートアップ・キャンパスの整備
- 国際展開も見据えた起業支援プログラムの強化

その他、起業家へのインセンティブや政府調達を活用促進 等

## イノベーション・エコシステム（米国事例）



# 持続的なスマートシティ実現に向けて(人材育成と推進体制づくり)

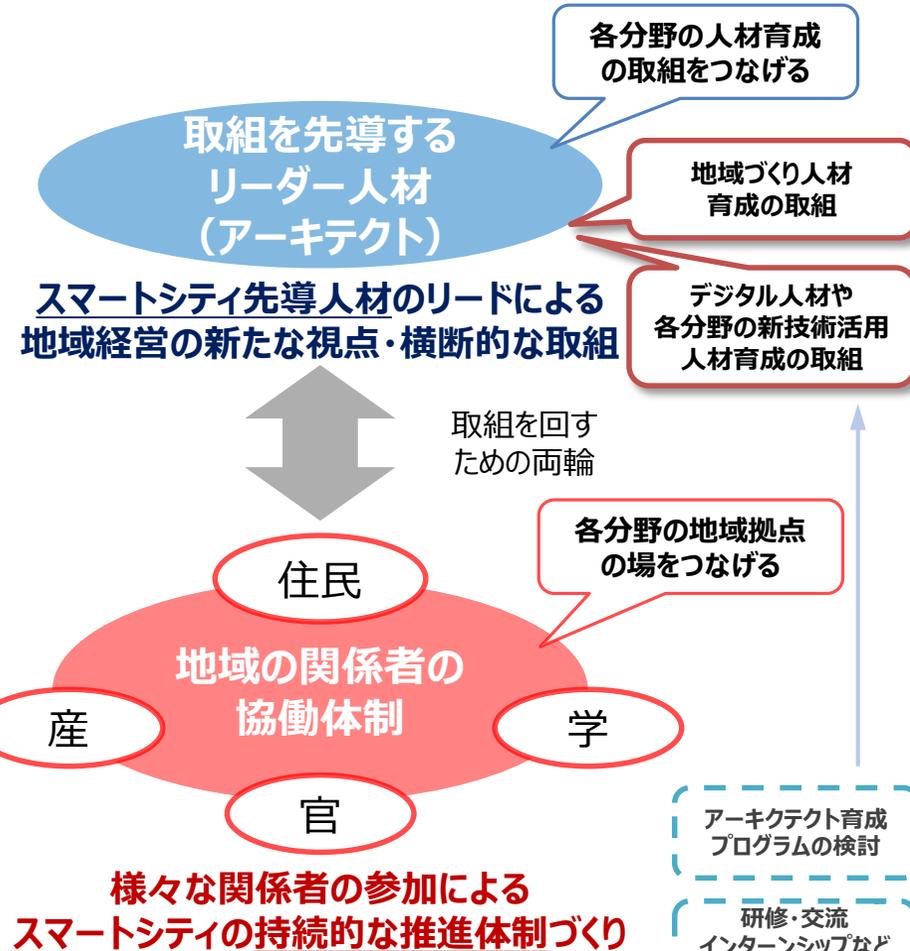
- 持続的なスマートシティの実現に向けた、スマートシティ運営上の課題解決の取組として、人材育成・推進体制は重要な課題のひとつ。

## スマートシティって？

- ① 下記の基本理念、基本原則に基づき
- ② 新技術や官民各種のデータを活用した市民一人一人に寄り添ったサービスの提供や、各種分野におけるマネジメントの高度化等により
- ③ 都市や地域が抱える諸課題の解決を行い、また新たな価値を創出し続ける
- ④ 持続可能な都市や地域



(出典：スマートシティ・ガイドブックより)



- アーキテクト育成プログラムの検討
- 研修・交流、インターンシップなどの活動
- 知識・知見をまとめた教育コンテンツの検討

社会の各分野の人材(地域づくり、デジタル、新技術活用、等)を結集した地域の拠点形成の取組との連携による育成・活動の場づくりが期待される